

障がいのある学生のための 支援ガイド



浦和大学

障がい学生支援室（ほっとコミュ）

2024年4月

目 次

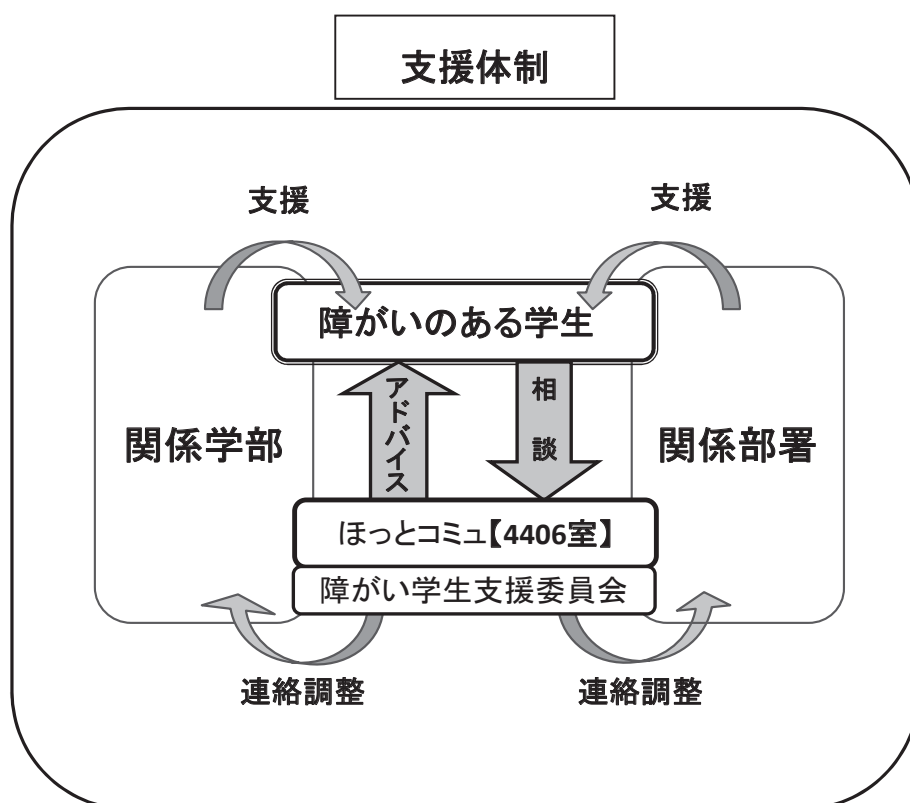
浦和大学における障がいのある学生への支援	1
支援体制	1
障がい学生支援室の組織	1
支援の対象	2
支援の内容	2
授業・定期試験等についての配慮事項	3
各部署が行っている支援内容	3
障害者差別解消法について	5
障がいを理解する	5
個別的配慮の例	6
Ⅰ 視覚障がい	6
Ⅱ 聴覚障がい	7
Ⅲ 肢体不自由	8
Ⅳ 精神障がい	8
Ⅴ 発達障がい	9
障がいのある人への接し方（例）	
1. 視覚障がいのある人への接し方	10
2. 聴覚障がいのある人への接し方	10
3. 肢体不自由のある人への接し方	10
4. 精神障がいのある人への接し方	11
5. 発達障がいのある人への接し方	11
資料編	12
障がい学生支援	13
障がい学生支援委員会所有資料	14

浦和大学における障がいのある学生への支援

浦和大学は、2005 年度に「障がい学生支援委員会」を設立し、身体に障がいのある学生の学習活動や学生生活等について、全学的視野に立って、関係部局や在籍学生との連絡調整を図りながら支援を行ってきました。

2015 年度からは、新たに精神障がいや発達障がいのある学生も支援対象とし、さらに支援室を設置し、専門職員を配置して相談に応じることになりました。

なお、学園には個人情報の保護に関する規定や、本学には学生の個人情報保護規則が定められており、学生の個人名や相談内容については、秘密が守られます。



【障がい学生支援室（ほっとコミュ）の組織】

- ① 室長（学生部長）
- ② 副室長（障がい学生支援委員長）
- ③ 障がい学生支援委員会委員
- ④ 専門職員

【支援の対象】

浦和大学障がい学生支援委員会内規によれば、以下のようになります。

- ① 身体に障がいのある学生や、精神に障がいのある学生（発達障がい、またはその傾向がある学生を含む）で、これまでに障害者手帳を持っている学生や、障がいがあることを示す診断書をもっている学生。
- ② しかし、①に該当しなくても、社会的コミュニケーションに何らかの困難さを抱えている学生本人やその保護者。

【支援の内容】

- ①障がいのある学生が修学を進めるうえでの困難に対して、『合理的配慮』を行います。

※合理的配慮とは、「障害者が他の者との平等を基礎として全ての人権及び基本的自由を享有し、又は行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において必要とされるものであり、かつ、均衡を失した又は過度の負担を課さないものをいう。（障害者の権利に関する条約第二条）とされています。

- ②学生への正しい障がい理解を促す啓発活動を行います。

【具体的内容】

1. 学内の物理的配慮

現在まで、①点字ブロックの敷設、②車いす用トイレの設置、③教務課脇ロッカーの使用、④パソコン等の必要な備品等の整備、⑤低床スクールバスの導入、⑥ほっとコミュ（4号館4階4406室）の設置などの支援を行っていますが、学生の要望に応じて改善をすすめます。

2. 講習・講演会の実施

障がいのある学生が授業を受ける際、あるいは大学生活を送る際に生じる不便さを少しでも補う目的から、教職員、学生に対して、障がいに対する理解等を深めるための講演会を年1回開催しています。

3. 授業および学外実習支援、学内生活支援

授業および学外実習支援、学内生活支援を、その必要性に応じて柔軟に決定します。

授業・定期試験等についての配慮事項

講義担当教員には、授業時に学生の障がいに応じた配慮をお願いしています。

なお、授業担当教員には、履修届が出された時点で、個別に教務課から依頼文書を送付し、学期内に担当教員へ支援状況等についてのモニタリング調査を実施します。

各部署が行っている支援内容

ほっとコミュが行っている学生の支援

ほっとコミュ・学習室では次のような支援を行っています。

- ◎ 学生相談（授業期間中・毎週木曜日（対面またはオンライン、電話相談）午前9時から午後6時まで）
※相談予約は、保健室にて受け付けています。なお、manabaにて相談時間の空き状況が把握できます。
- ◎ 関連部署との連絡調整
- ◎ 障がいのある学生の自習（随時）
※ほっとコミュのある4406室を学習室等として、利用することができます。（学生相談にて4406室を利用している場合を除く）

教務課が行っている学生の支援

教務課では、次のような支援を行っています。

- ◎ 教員への配慮事項の連絡
 - ◎ モニタリング調査の連絡
 - ◎ 定期試験への配慮、調整
 - ◎ 教務課前ロッカーの貸出
 - ◎ ほっとコミュ・学習室の鍵の貸出
- その他については、学生との相談のうえ適時対応しています。

学生・就職課が行っている学生の支援

学生・就職課では、次のような支援を行っています。

1. ハローワークを活用しての就職支援
2. 東京都労働局、学生職業総合支援センター（障がい者コーナー）による「障がい学生就職希望調査」の実施（毎年9月から10月に実施）
3. 障がいのある学生のための就職情報誌の学内掲示及び希望者への配布
 - ・『サ～ナ』（株式会社イフ総合研究所「サ～ナ」）
 - ・『クローバー』（株式会社ジェイ・ブロード）
4. 合同企業面談会（「サ～ナ就職フェスタ」「クローバー就職フォーラム」）などの開催に関する情報提供
5. 進路先決定や就職活動に対する個別面談等、具体的なアドバイスの実施

春、夏、秋の年3回
発行されています

「障害者差別解消法について」

障害者差別解消法（正式名称は「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」）が平成 28 年 4 月 1 日から施行されています。

この法律は、障害を理由とする差別の解消の推進に関する基本的事項や国の行政機関、地方公共団体等及び民間事業者における障害を理由とする差別を解消するための措置などについて定めることによって、すべての国民が障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現につなげることを目的としています。

障害のあるなしにかかわらず、すべての命は同じように大切であり、かけがえのないものです。ひとりひとりの命の重さは、障害のあるなしによって、少しも変わることはありません。このような価値観を、改めて、社会全体で共有していくことが何よりも大切です。また、このために本学では合理的配慮を徹底します。

（参考資料：内閣府「障害者差別解消法リーフレット」）

「障がいを理解する」

人はそれぞれ大なり小なり、他の人と異なる何らかの特徴があります。その特徴が、日常の生活を送るのに顕著な困難を伴う場合、一般的に『障がい』と定義されます。

『障がい』を考える際に大切なことは、『障がい』は、私たちの意識やその時々我的生活環境により変化するということです。つまり環境が改善されれば『障がい』ではなくなることや、軽減する場合があるということです。

大学という学びの場で考えた場合、例えば車椅子を使用しているも、学修を進めるに際して顕著な困難が伴わなければ『障がい』はないことになります。・ ・これが基本的な考え方です。

『障がい』のある人と関わる時「障がいを持つ人にはこう対処すればいい」といった『障がい』への「対処」だけを考えがちです。しかし、「障がいのある人」をどのように理解し、共に歩いていくかを考えることが一番大切であることを忘れてはならないと考えます。

浦和大学で福祉を学ぶとき、この「共に学ぶための理解」こそが、福祉の実践であるといえます。

＜個別的配慮の例＞

I 視覚障がい

【授業についての配慮の例】

(1) 教科書等

教科書の音訳には時間がかかります。早い段階で教科書を本人にお知らせください。

(2) 授業中に配布する資料

パソコンで作成した資料は、電子メール等で本人に送ってください（テキストファイル）。学生は早めに入手できれば、パソコンで読むことが可能です。

(3) 板書

可能な限り、板書内容を読み上げてください（読み上げながら板書して下さっても大丈夫です）。話していることの補足の意味の板書はその限りではありません。無言の板書が長く続くと不安になりますので、書いた内容が伝わるように説明してください。

専門用語については、どんな漢字で表記するか、外国語はスペリングを説明してください。板書を指しながら「これ」「あれ」等の指示語を使うと理解が困難なので、具体的なことばに置き換えてください。

(4) 視聴覚機器、パソコンの使用

OHPやOHC、プレゼンテーション用ソフトを使用する場合、事前に電子メール等によって入手できれば、授業時には画面を見なくても理解ができますので、授業時の配布資料と同様、早めに学生に送ってください。また、説明の際にも指示語をさけてください。

ビデオを利用する場合、音声だけで理解できるビデオなら良いですが、字幕の読み上げや画面の説明が必要な場合は、できるだけ補助的な説明をしてください。

(5) 授業中の提出物

授業時間内に意見や感想を出す場合、出席カードを提出させ（教員が名前を記入）、授業後に提出させるなどの方法をおとりください。

(6) 録音

授業時間内の筆記が困難なので、復習するなどの学習に限定して使用するための録音を許可してください。録音したものは限定して使用するようご教示下さい。

(7) テスト・レポート

テストは他学生とは異なる別室で、デジタルデータの形で提供される問題をパソコンを使用して音声化させることによって、行うことが一般的です。解答は当該学生が普通文字で印字して教員に手渡すか、USBメモリ等で渡すことが一般的ですが、口頭試問で行うことなどの方法も考えられます（通常、1.5倍の試験時間の延長）。

なお、短い問題文であれば読み上げて、解答を入力させ、普通文字で印字して提出

か、USB メモリ等で渡す方法も可能です。

レポートは、本人がパソコンにより普通文字で作成して印字し提出するか、USB メモリ等で提出する方法が一般的です。

(8) その他

掲示板等で情報を提示する場合、同時に同様の情報を教務課に設置したボックスに入れてくださるか、直接メールで当該学生にお知らせ下さい。

II 聴覚障がい

【授業についての配慮の例】

(1) 授業中の配慮

- ① 資料配付、板書を増やすなど、なるべく視覚的な情報を提供することが大切です。特に試験等に関する重要なことは必ず板書してください。
- ② 口話を習得している場合でも、はっきりした発音と口の動き、少しゆっくりと話すことによってより理解が深まります。板書しながら後ろ向きで話したり、マイクや資料等で口元を隠さないでください。
- ③ OHPやOHC、プレゼンテーション用ソフトを使用する場合、画面印刷したものを本人に渡してください（ノートテイクや教員の口元を見るために、内容の把握に時間がかかるため）。
- ④ ビデオを利用する（字幕スーパーがついていない）場合、あらかじめ要旨を書いた資料を渡してください（字幕スーパー付け、同時プレゼンテーション用文字情報映像等による学生アシスタントスタッフの養成と活動が軌道に乗るまでの間）。
- ⑤ 連絡事項は掲示板等で情報を提示してください。

(2) ヒヤリングテストの場合

以下のような方法をお取り下さい。

- ① 出題方法を変更する（文字に置き換える）。
- ② 代替問題を用意する。

Ⅲ 肢体不自由

個々の学生により、配慮事項が異なります。

筆記が困難であり、時間がかかる学生には、以下の点にご配慮ください。

【授業についての配慮の例】

（１）授業中の配慮

授業時間内に意見や感想を提出する場合、出席カードを提出させ、期限を決めて後日提出することを許可して下さい。

（２）録音

復習するために録音を許可して下さい。録音したものは限定して使用するようにご教示下さい。

（３）テスト・レポート

テストは他学生と同室で、解答をパソコンで入力する方法で行い（通常 1.5 倍の試験時間の延長）、終了後 USB メモリ等で提出させて下さい。

Ⅳ 精神障がい

精神障がいのある学生は、精神症状（イライラする・落ち着かない・過度な不安など）、また、服薬している薬の副作用による身体症状（眠くなる・流涎が見られる・座ってられないなど）が見られる場合もあります。症状が顕著に見られる場合は以下の点にご配慮ください。

【授業についての配慮の例】

（１）授業中の配慮

授業時間内にこれらの症状が見られる場合は、症状が改善されるまで保健室で休ませるなどの対応をしてください。その際、本人に過度なストレスを与えないように声かけなどの配慮をお願いします。また、本人から要望があった場合、テキストデータの提供をお願いします。

（２）テスト・レポート

精神疾患に起因する症状が顕著に見られ、個室でのテスト実施を本人が希望する場合は、個室でのテストを実施してください。

（３）欠席時の対応

学生からの要望があれば、授業資料の配布、内容についてのアドバイスなどの個別対応をお願いします。

V 発達障がい

発達障がいのある学生は、回りくどい表現や遠まわしな表現が理解しにくかったり、状況の理解、人の気持ちを推測することが苦手などの特徴があります。また、注意、集中力に欠けたり、文字の読み書きに困難さがみられる場合もあります。大学での生活では、特に次の点への配慮が必要と考えられます。

【授業についての配慮の例】

（１）授業中の配慮

- ① 教室変更、試験の場所、レポート課題などの大切な情報は、口頭での指示だけではなく配布資料、掲示などで伝えてください。また、口頭の場合、ゆっくり、聞き取りやすい説明をお願いします。
- ② 授業の選択や継続的な授業参加が難しい場合、授業のアウトライン、授業形態、評価方法などについてシラバスを元に改めて説明してください。
- ③ 計画を立てて学習することが難しい、考えをまとめて文章化することが難しいなどの場合、ゼミ担当教員により定期的な確認、個別的なアドバイスを実施してください。
- ④ 文字の読み書きに困難さがある場合、板書を写真に撮ること、講義内容の録音、電子メモ帳の利用等を許可してください。また、本人から要望があった場合、テキストデータの提供をお願いします。

（２）テスト・レポート

試験に集中できないなどの理由により、個室でのテスト実施を本人が希望する場合は、個室でのテストを実施してください。その他配慮が必要な場合は、検討してください。

（３）欠席時の対応

授業に欠席した場合は、学生からの要望に応じて授業資料の配布、内容についてのアドバイスなどの個別対応をお願いします。

＜障がいのある人への接し方（例）＞

1. 視覚障がいのある人への接し方

視覚障がいの程度の違いによって、適切な接し方は異なる。ここでは視覚による情報がほとんど得られない場合について記述する。

a. 挨拶

見える人から声を掛ける。

b. 会話

多数で話をする時は、話をする人が名前を名乗ってから話し出すようにすると、誰が話しているかがわかるので、楽しく会話ができる。うなずくだけではなく、「はい」「いいえ」と言葉に出して返事をする。また、何かを渡す時には、何を渡すのかを説明してから渡すこと。

2. 聴覚障がいのある人への接し方（コミュニケーションの方法）

聴覚障がいの程度によって、適切なコミュニケーションは異なる。ここでは聴覚による情報がほとんど得られない場合について記述する。

a. 読話（口話）

お互いの口の動きを見ながら読み取る方法。向かい合い、口の動きがはっきり見えるようにしながら一定の速度で行う。聴覚障がいのある人にとっては身体的・心理的負担が大きい。

b. 筆談

手のひらや紙に文字を書く方法。細かいニュアンスは伝わりにくい。

c. 手話

手の動作や表情などをまじえてコミュニケーションをとるもので、聴覚障がいのある人の間で最も一般的に用いられている手段。

d. 要約筆記

話しの内容を要約し、その場で書いて伝えること。手書き要約筆記には、主に紙に文字を書いて伝えるノートテイクと紙に筆記したものをオーバーヘッドカメラを用いてスクリーンに映し出すOHC要約筆記がある。

中途失聴や難聴の人は要約筆記を利用するが多い。

聴覚障がいのある人は外見から判断がつきにくい特徴がある。駅や乗り物の放送が聞こえず、緊急時に何が起きているか理解できないので、緊急時には、手話や筆記で放送内容を伝える。

3. 肢体不自由のある人への接し方

車椅子の人が困っていたら

(1) 手伝いが必要かどうか、まず声をかける。

(2) どのようなことをどのように手伝ったらよいかを確認し、必要に応じてまわりの人に声をかけて手伝ってもらう。

4. 精神障がいのある人への接し方

こころの病である精神障がいは、外見上分かりにくいいため、周囲には理解されにくいという側面がある。

様々な症状が見られるが、気分が沈む、意欲が出にくい、考えがまとまりにくい、過度な不安感などの精神症状により、日常生活や対人関係に困難が生じることもある。また、治療のための薬の副作用として、眠気、落ち着かない、手の震えが見られる場合もある。

日常の会話で・・・

話を聞く時は、できるだけ落ち着いて聞くことを心がける。

その際には、

- (1) 何が正しい、何が間違っているなどと決めつけない。
- (2) 話をさえぎらず、話を最後まで聞く。
- (3) 本人の『つらさ』を受け止める。
- (4) うつ症状がみられる人には、無理に励まさない。

5. 発達障がいのある人への接し方

発達障がいは主として、人付き合いが上手くできない、状況判断が的確にできないなどの特徴がある。

日常の会話で・・・

- (1) 回りくどい言い方、遠まわしな言い方が理解しにくいいため、ゆっくり聞き取りやすい話し方をする。抽象的ではなく、具体的に表現する。
- (2) 会話だけで理解しにくい場合は、メールなどの文字媒体も活用する。この場合も、簡潔で明確な表現をする。
- (3) 状況の理解や人の気持ちを推察することが難しいなどの特徴を理解する。
- (4) 他者の気分を害するような言動をすることがあるかもしれないが、厳しく非難しない。よく知っている人の場合、穏やかにどうすればいいかをアドバイスしてもよい。

資料編

ここでは、2022 年度に実施した「障がい学生支援委員会」の活動について、参考資料として掲載しています。また、「障がい学生支援委員会」が所有している書籍等についても紹介をしています。

学生、教職員に書籍等の貸し出しも行っています。

□障がい学生支援

- ① 身体障がいのある学生の物理的授業支援
- ② 授業に対する合理的配慮依頼（授業中の配慮事項を科目担当教員に文章で依頼）
- ③ 障がいのある学生に対する相談援助（生活相談、学修相談、進路相談など）

障がい学生支援委員会所有資料

【書籍】

<視覚障がい関連>

	書籍名	著者名	出版社
1	視覚障害者のための音声パソコン入門 (バリアフリーIT マニュアル)	井尾真知子	インデックス出版
2	視覚障害児・者の理解と支援	芝田裕一	北大路書房
3	視覚障害学生サポートガイドブック 進学・入試から卒業・就職までの実践的支援ノウハウ	鳥山由子・青柳まゆみ 青松利明・石井裕志	日本医療企画
4	視覚障害学生サポートガイドブック ともに学ぶための講義保障支援の進め方	斎藤佐和 (監修) 白澤麻弓・徳田克己	日本医療企画
5	愛は見える 全盲夫婦の“たからもの”	立道聡子 八木里美	光文社
6	さわる文化への招待 触覚で見る手学問のすすめ	広瀬浩二郎	世界思想社
7	点字・点訳基本入門 点字に興味を持ったなら、最初に読む一冊	当山啓	産学社
8	盲ろう者として生きて 指点字によるコミュニケーションの復活と再生	福島智	明石書店
9	初歩から学ぶ英訳点字	福井哲也	日本点字図書館
10	標準点字表記辞典	「標準点字表記辞典」編集委員会	日本盲人福祉研究会
11	最新点字表記辞典	「最新点字表記辞典」編集委員会	白文館新社
12	全盲の僕が弁護士になった理由 あきらめない心の鍛え方	大胡田誠 日経トップリーダー編	日経BP社

<聴覚障がい関連>

	書籍名	著者名	出版社
1	新・手話辞典 第2版	手話コミュニケーション研究会 (編集)	中央法規
2	聾・聴覚障害百科事典	Carol turkington (原著) Allen E. Sussman (原著) 中野 善達 (監訳)	明石書店
3	聾教育の脱構築	金澤貴之 (編著)	明石書店
4	高等教育における聴覚障害者の自立支援 ユニバーサル・インクルーシブデザインの可能性	吉田仁美	ミネルヴァ書房
5	聞こえないってどんなこと 聴覚障害者 25 人、それぞれの生き方	全日本ろうあ連盟 (監修)	一橋出版
6	字が話す 目が聞く 日本語と要約筆記	山城秀生 (監修) 上村博一 (著)	新樹社
7	大学ノートテイク入門 聴覚障害学生をサポートする	吉川あゆみ・太田晴康 広田典子・白澤麻弓	人間社

	書籍名	著者名	出版社
8	大学ノートテイク支援ハンドブック ノートテイクの養成方法から制度の運営まで	日本聴覚障害学生高等教育 支援ネットワーク情報保障 評価事業グループ（編著）	人間社
9	聴力障害と精神障害をあわせもつ人の支援と コミュニケーション 困難性から理解へ帰結する概念モデルの構築	赤畑淳	ミネルヴァ書房

<肢体不自由関連>

	書籍名	著者名	出版社
1	いのち輝く重症心身障害児(者)とともに 福祉の道を歩むあなたへ	戸次義文	東銀座出版社
2	脳性麻痺の運動障害と支援 実践編	北村晋一	群青社
3	障害の重い子どもの知覚 運動学習：ふれあいあそび教材とその活用	坂本茂 佐藤孝二	ジアース教育新社
4	あなたはわたしの手になれますか こちよいいケアを受けるために	小山内美智子	中央法規
5	ガイドヘルパー研修テキスト全身性障害編	ガイドヘルパー技術研究会 （監修）	中央法規
6	マンガのできる介護職員研修	介護ビジョン編集部	日本医療企画
7	完全図解 新しい介護	大田仁史 三好春樹	講談社
8	実用介護事典	大田仁史 三好春樹	講談社

<発達障がい関連>

	書籍名	著者名	出版社
1	思春期を生きる発達障害 こころを受けとるための技法	花園大学心理カウンセリン グセンター（監修）	創元社
2	関係性から見る発達障害	花園大学心理カウンセリン グセンター	創元社
3	発達障害者の理解と支援 豊かな社会生活をめざす青年期・成人期の包括的 ケア	梅永雄二	福村出版
4	発達障害の臨床的理解と支援 4 思春期以降の理解と支援	石井哲夫（監修）辻井正次・ 氏田照子（編著）	金子書房
5	思春期・青年期の発達障害者が「自分らしく生 きる」ための支援	小島道生、田中真理 井澤信三、田中敦士	金子書房
6	大学生の発達障害	佐々木正美・徳永雄二	講談社
7	発達障害 工夫しだい 支援しだい	しーた（著） 梅永雄二（監 修）	G a k k e n
8	アスペルガー症候群だっていいじゃない	しーた（著） 梅永雄二（監 修）	G a k k e n

	書籍名	著者名	出版社
9	高機能自閉症、アスペルガー症候群への思春期・青年期支援	井上雅彦・井澤信三(編著)	明治図書
10	アスペルガーの子の「本当の気持ち」 ずっと生きづらかった私だからこそわかる本	アズ直子	大和出版
11	家族のためのアスペルガー症候群・高機能自閉症がよくわかる本	原仁	池田書店
12	アスペルガー恋愛読本	ジョヌヴィエーヴ・エドモンズ ディーン・ウォートン	人文書院
13	ごもっくんは ASD まんが 発達障害のある子の世界	大橋ケン 林寧哲	明石書店
14	『跳びはねる思考—会話のできない自閉症の僕が考えていること—』	東田直樹	イースト・プレス
15	発達障害のある学生支援ケースブック 支援の実例とポイント	独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社
16	発達障害大学生支援への挑戦—ナラティブ・アプローチとナレッジ・マネジメント	齋藤清二、西村優紀美 吉永崇史	金剛出版
17	発達障害のある高校生への大学進学ガイド ナラティブ・アプローチによる実践と研究	齋藤清二、西村優紀美 吉永崇史、涌谷文哲、水野薫	遠見書房
18	仕事がしたい！発達障害がある人の就労相談	梅永雄二	明石書店
19	発達障害がある人のためのみるみる会話力が つくノート	柳下記子	講談社
20	発達障害児者支援とアセスメントのガイドライン	辻井正次	金子書房
21	あたまと心で考えよう SST ワークシート 思春期編	LD 発達相談センターかながわ	かもがわ出版
22	もしかして私大人の発達障害かもしれない！？	田中康雄	すばる舎
23	学生相談と発達障害	高石恭子・岩田淳子編著	学苑社
24	発達障害のある大学生のキャンパスライフ サポートブック 大学・本人・家族にできること	高橋知音	学研教育出版
25	大人の AD／HD [注意欠如・多動(性)障害]	田中康雄	講談社
26	わが子が発達障害と診断されたら	佐々木正美編著 諏訪利明・他	すばる舎
27	アスペルガー症候群と思春期 実社会へ旅立つ準備を支援するために	テレサ・ポーリック 田中康夫監修 丸山敬子訳	明石書店
28	発達障害のある大学生への支援 (ハンディシ리즈 発達障害支援・特別支援教育ナビ)	高橋知音(編著)	金子書房
29	発達障害のある学生支援ガイドブック ＜オンデマンド版＞	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社

	書籍名	著者名	出版社
30	大学生 大学生生活の適応が気になる学生を支える（心の発達支援シリーズ6）	安田道子・鈴木健一（編著）	明石書店
31	発達障害のある人の就労支援（ハンディシリーズ発達障害支援・特別支援教育ナビ）	梅永雄二（編著）	金子書房
32	発達障害の僕が輝ける場所を見つけられた理由	栗原類	KADOKAWA
33	発達障害のある人の就活成功バイブル（経営者新書）	小宮善継	幻冬舎
34	これからの発達障害者のアセスメント—支援の一步となるために—（ハンディシリーズ発達障害支援・特別支援教育ナビ）	黒田美保（編著）	金子書房
35	大学における発達障害学生の発達保障 障害者問題研究第43巻第2号	障害者問題研究編集委員会（編）	全国障害者問題研究会
36	発達障害の人が働くためのQ&A	石井京子・池嶋貫二	弘文堂
37	大人の発達障害ってそういうことだったのか	宮岡等・内山登紀夫	医学書院
38	発達障害の人が活躍するためのヒント	石井京子、池嶋貫二 林哲也、村上由美	弘文堂
39	発達障害の大学生のためのキャンパスライフQ&A	石井京子、池嶋貫二 高橋知音	弘文堂
40	発達障害の人の内定ハンドブック—『発達障害の人の就活ノートII』完全版	石井京子、池嶋貫二、 佐藤智恵	弘文堂
41	発達障害の人の就活ノート	石井京子	弘文堂
42	ちょっとしたことでうまくいく 発達障害の人が上手に働くための本	對馬陽一郎	翔泳社
43	大人の自閉症スペクトラムのためのコミュニケーション・トレーニング・マニュアル	加藤進昌（監修）、横井英樹、五十嵐美紀、小峰洋子、内田侑里香、月間紗也	星和書店
44	大人の自閉症スペクトラムのためのコミュニケーション・トレーニング・ワークブック	加藤進昌（監修）、横井英樹、五十嵐美紀、小峰洋子、内田侑里香、月間紗也	星和書店
45	大学・高校のLD・AD／HD・高機能自閉症の支援のためのヒント集 あなたが明日からできること	太田正己・小谷裕実（編著）	黎明書房
46	友だち作りの科学—社会性に課題のある思春期・青年期のためのSSTガイドブック	エリザベス・A・ローガソン（著）、辻井 正次（監訳）	金剛出版
47	友だち作りのSST—自閉スペクトラム症と社会性に課題のある思春期のためのPEERS トレーナーマニュアル	エリザベス・A・ローガソン、フレッド・フランケル（著）、山田 智子（監訳）	金剛出版
48	発達障害のある高校生・大学生のための上手な体・手指の使い方	笹田 哲（著）	中央法規出版

	書籍名	著者名	出版社
49	ひといちばい敏感な子	エレイン・N・アーロン (著), 明橋大二 (監訳)	1 万年堂出版
50	「それでも話し始めよう アサーティブネスに 学ぶ対等なコミュニケーション」	アン・ディクソン(著)	クレイン
51	もう怒りで失敗しない! アンガーマネジメン ト見るだけノート	安藤俊介(監修)	宝島社
52	図解 モチベーション大百科	池田貴将(著)	サンクチュアリ出版

<知的障がい関連>

	書籍名	著者名	出版社
1	知的障害者が入所施設ではなく地域で生きて いくための本当事者と支援者が共に考えるために	ピープルファースト東久留 米	生活書院
2	はたらくことは生きること 知的障害者が育ち続ける方法	小坂孫次	中央法規出版
3	知的障害者と自立 青年期・成人期におけるライフコースのために	新藤こずえ	生活書院
4	軽度の知的障害のある生徒の就労を目指した 青年期教育 職業教育、生徒指導・日常生活 の指導・道徳の授業、共生教育	渡辺明広	黎明書房
5	知的障害教育の本質 本人主体を支える	小出進	ジアース教育新社
6	知的障害者の自己決定支援 支援を受けた意思決定の法制度と実践	木口恵美子	筒井書房
7	知的障害や自閉症の人たちのための見てわか るビジネスマナー集	「見てわかるビジネスマナ ー集」編集企画プロジェク ト	ジアース教育新社

<精神疾患関連>

	書籍名	著者名	出版社
1	精神保健福祉用語辞典	日本精神保健福祉士協会 日本精神保健福祉学会	中央法規
2	高校生・大学生にみられる「こころの障害」― その理解と対応	武藤直義	あいり出版
3	DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引	American Psychiatric Association	医学書院
4	新版 大学生のこころのケア・ガイドブッケー 精神科と学生相談からの 17 章	福田真也	金剛出版
5	子どものための精神医学	滝川一廣	医学書院
6	自分でできる境界性パーソナリティ障害(BPD) 克服法	ブレイズ・アギーレ (著), ジリアン・ゲイレン (著)	星和書店

＜障がいのある学生支援全般＞

	書籍名	著者名	出版社
1	障害のある学生を支える―教員の体験談を通じて教育機関の役割を探る	ホーニー・M・ホッジ、ジェニー・プレストン・パットン(編) 太田晴康(監訳)、三澤かがり(訳)	文理閣
2	ICT が拓く多様な学生への支援 2 大学の情報保障の現在と新たな技術開発	広瀬洋子	独立行政法人メディア教育開発センター
3	調査と体験文から見た障害学生の現状とニーズ	西村伸子(編集)	全国障害学生支援センター
4	大学案内障害者版 (2005、2008、2014)	全国障害学生支援センター	全国障害学生支援センター
5	障害学生からのメッセージ みんなの思いが明日をひらく	西村伸子(編著)	全国障害学生支援センター
6	大学における障害学生支援のあり方	日本障害者高等教育支援センター問題研究会(編)	星の環会
7	高等教育のユニバーサルデザイン化 障害のある学生の自立と共存を目指して	佐野(藤田)眞理子 吉原正治	大学教育出版
8	学校での ICT 利用による読み書き支援: 合理的配慮のための具体的な実践 (ハンディシリーズ 発達障害支援・特別支援教育ナビ)	近藤武夫(著)・柘植雅義(監修)	金子書房

＜障害関係法＞

	書籍名	著者名	出版社
1	障害者自立支援法事業者ハンドブック指定基準編 (2008 年版)	障害者福祉研究会	中央法規
2	障害者自立支援用語辞典	障害者福祉研究会	中央法規
3	ポスト障害者自立支援法の福祉政策 生活の自立とケアの自律を求めて	岡部耕典	明石書店
4	これならわかるくすっきり図解＜ 障害者差別解消法＞	二本柳覚(編著)	翔泳社

＜その他＞

	書籍名	著者名	出版社
1	障害者白書 平成 19 ～ 26 年版	内閣府編集	佐伯印刷
2	ICF 国際生活機能分類 国際障害分類改訂版	障害者福祉研究会	中央法規
3	バリアフリー住宅【計画・設計】 パーフェクトマニュアル	坂本啓治	エクスナレッジ
4	住環境のバリアフリーデザインブック 福祉用具・機器の選択から住まいの新築・改修の手法まで	野村 歡、橋本 美芽	彰国社
5	in DETAIL Housing for People of All Ages flexible unrestricted senior-friendly	Christian Schittich	Birkhauser
6	よくわかる Microsoft Office Word2007(基礎)	富士通エフ・オー・エム	FOM 出版

	書籍名	著者名	出版社
7	よくわかる Microsoft Office Word2007 (応用)	富士通エフ・オー・エム	FOM 出版
8	よくわかる Microsoft Office Excel2007 (基礎)	富士通エフ・オー・エム	FOM 出版
9	よくわかる Microsoft Office Excel2007 (応用)	富士通エフ・オー・エム	FOM 出版
10	関係の原像を描く「障害」元学生との対話を重ねて	篠原睦治	現代書館
11	障害者サービス (図書館員選書)	日本図書館協会障害者サービス委員会	日本図書館協会
12	「感心ね！」なんて言わないで、障害者と旅して遊んで、仕事して	石田良子	講談社
13	前頭葉機能不全その先の戦略 Rus k 通院プログラムと神経心理ピラミッド	Yehuda Ben-Yishay 大橋正洋 (監修), 立神粧子 (著)	医学書院
14	アクティビティ実践とQOLの向上	日本福祉文化学会編集委員会／石田易司 (編)	明石書房
15	災害と福祉文化	日本福祉文化学会編集委員会 渡邊豊 (編)	明石書店
16	生きたことばの力とコミュニケーションの回復	秦野悦子 (編)	金子書房
17	自立生活運動史 社会変革の戦略と戦術	中西正司	現代書館
18	ちづる 娘と私の「幸せ」な人生	赤崎久美	新評論
19	インクルーシブ教育への提言 特別支援教育の革新	清水貞夫	クリエイツかもがわ
20	特別支援学校教師になるには	松矢勝広、高野聡子、 宮崎英憲	ベリかん社
21	児童養護施設の子どもたち	大久保真紀	高文研
22	社会を楽しくする障害者メディア コトノネ (vol. 10)	コトノネ編集部	はたらくよろこびデザイン室
23	無私の日本人	磯田道史	文藝春秋
24	出会い、ふれあい、心の輪 平成 19～26 年度入賞作品集		内閣府
25	やわらかアカデミズム・<わかる>シリーズ よくわかる障害学	小川喜道・杉野昭博編著	ミネルヴァ書房
26	セックスボランティア	川合香織	新潮社
27	新版 論文の教室 レポートから卒論まで (NHK ブックス)	戸田山和久	NHK 出版
28	論文・レポートの基本	石黒圭	日本実業出版社

	書籍名	著者名	出版社
29	暗闇でも走る 発達障害・うつ・ひきこもりだった僕が不登校・中退者の進学塾をつくった理由	安田祐輔	講談社
30	大学生 学びのハンドブック [4 訂版]	世界思想社編集部	世界思想社

その他寄贈図書多数あり

【ビデオ・DVD】

	タイトル	監修	発行元
1	高等教育のバリアフリーを目指して	メディカル教育開発センター	財団法人放送大学教育振興
2	疾病・形態別介護ビデオシリーズ 第1巻 脳性マヒ編	京都女子大学家政学部 井上千津子、 田中由起子、山田健司	ピースクリエイト
3	発達障害の学生支援 富山大学の取り組みに学ぶ	梅永雄二（監修・解説）	中島映像教材出版

障がい学生のための
支援ガイドブック

編集・発行：浦和大学

障がい学生支援委員会

発行日：2024年4月

〒336-0974

埼玉県さいたま市緑区大崎 3551 番地

TEL 048-878-6000

FAX 048-878-3558